

議 事 録	担当 南海電気鉄道株式会社 酒井大輔
--------------	---------------------------------

会議名称	第3回 道頓堀川水辺空間利用検討会
開催日時	2016年6月16日(木) 14:00~16:00
開催場所	南海電気鉄道株式会社 本社 4階第2会議室

出席者 (役職・敬称 略) (順不同)

【委員】 加藤 座長(関西学院大学 名誉教授)、長尾(大阪市立大学 大学院経済学研究科 教授)、豊島(弁護士)、吉田(公認会計士)、北辻(道頓堀商店会) 稲本(宗右衛門町商店街振興組合)、高井(道頓堀商店街振興組合)、高橋(久左衛門町まちづくり協議会)、田中(道頓堀一丁目西櫓振興町会)、堀(道頓堀商店連盟)、長岡(高台連合振興町会)

【大阪市関連部局】 木戸(中央区役所)、武内(浪速区役所)、松原(西区役所)、橋本(経済戦略局)、山中(建設局 河川・渡船管理事務所)

【事務局】 上田・日下部・椋本・田淵・外勢・藤木(建設局河川課)

【管理運営事業者】 中島・今中・酒井・新井(南海電気鉄道株式会社) (26名)

提供資料	作成元
資料-1 平成27年度管理運営状況について	管理運営事業者(南海電気鉄道株式会社)
資料-2 平成27年度収支実績について	
資料-3 平成28年度予算及び取組み目標について	
資料-4 運営諸経費の徴収後の動向について	
資料-5 平成28年度 さらなる賑わい創出に向けて	事務局(建設局 河川課)
資料-6 ロケーション撮影(ドローン)の試行実施について	

議 事 内 容	備 考 (発言者)
<p>1. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>◆平成27年度管理運営状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要を説明 →イベント、オープンカフェの件数が順調に伸びている。イベントは道頓堀川開削400年で注目度が高かったのと、平日に安定してイベントを誘致できたことが件数に大きく寄与した。オープンカフェは従来の複数月割引制度と、それに加えWi-fi設置割引制度を導入したことが大きい。一方で、ロケーション撮影の減少は、平成26年度にグリコ看板の更新があった反動と分析している。広告は苦戦が続いているが、1件の契約をいただいた。独立型店舗は、5月から10月まで誘致することができ、湊町エリアの新たな賑わいづくりに大きく貢献することができたと考えている。 <p>◆平成27年度収支実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要を説明 →平成27年度は独立型店舗の新規利用、広告の掲出やイベント増により、312万円の黒字を計上した。しかしながら、地域活性化への貢献事業費として、弊社から409万円を支出したので、実質的には97万円の赤字になった。赤字幅は格段に縮小しているので、黒字化を目指して今後ともとんぼりリバーウォークの賑わいづくりに貢献できるよう取り組んでいく。 →イベント同士で、コラボしたいといった問い合わせはあるか。横の繋がりにより、安定的なイベントの実施ができるのではないか。 →コラボしたいとの問い合わせはないが、例えば、イベント主催者に別のイベントを検討している主催者を紹介する等の誘致を行い、イベントの平日利用を増やしている。 →広告枠の利用誘致として、イベント利用とセットで案内するのはどうか。 →既に、イベント受付時にイベント内容によっては広告を掲出することで、イベントも相乗効果が見込まれるといった案内をしている。 →イベントを実施する上で課題はあるか。 →屋外なので、天候によるイベント中止リスクや音楽イベントによる騒音等の課題はある。 →南海主催イベントについて、雨天等で開催が2日間のうち1日が中止となった場合の対応方法や影響、及び独立型店舗が昨年度に引き続き同じ店舗が出店されるとのことで、主催者の評価を教えてください。 →昨年度は南海電鉄ホームページや南海テレホンセンター等で中止の案内をすることで、混乱や意見等はなかった。 →独立型店舗は、当初から複数年での出店計画を立案されており、初年度にあたる平成26年度は目標を達成した、と主催者から聞いている。さらに、来年度も出店したいとの意向も既に聞いている。 →小学生の写生授業は、記憶にも残せて将来性を感じる。大阪市内の様々な小学校で実施していれば良いと思う。 →宗右衛門町商店街でも店舗が増え、道路に看板が出てきており、下げてもらうのに苦労した。リバーウォークも看板が少ない時から対応する方が良い。 川沿いでの一時占用の際に、商店街に連絡がなく、工事車両が勝手に止められている。今後情報連携等をしてほしい。 →工事の際には、トラック等を宗右衛門町商店街に停めるケースや搬入経路に利用することが多いので、申請があった場合には警察署や商店街事務所に行くよう指導している。引き続き、徹底していく。 →写生授業は、楽しい事だし良い取組みだと思うが、現地に行くまでの引率や天候を考えるとリバーウォークに近い地域の学校に限定されるのかもしれない。 →地域活性化事業のなかで、植栽関係は地域の方々にも参加していただき、一緒に出来るのではないか。 →地元小学生と一緒に植替えを実施し、その際には地域のボランティアの方々にも協力いただいている。 →冒頭で区ごとに運営方針が示されているとの話があったが、植栽関係について、区役所に協力してもらったり植栽費用を負担してもらったり出来ないのか。 →一般的に、道路上の植栽等の身近な場合は、指定管理者や地域コミュニティー等に任せる傾向がある。お願いしても、一朝一夕にはいかないだろう。現在は、試験的に南海が取り組んでいると思っていた。 →建設局には公園部局があり、緑化を推進しており、何かできることがあれば取り入れたい。 →リバーウォークの最終目標は、目隠しパネルが取れて川沿いの店舗が川側に向けて開けること。広告も店舗オーナーが掲出することで、南海の収益が増え活性化に繋がると思う。 →目隠しパネルの全面撤去については、活性化の面でもそうあるべきだと思ってる。しかし、一部のビルにおいて、防潮壁があることで撤去出来ないところがある。このような中、どのように今後されるのか考えを聞きたい。 →新たな賑わい創出に関する内容になっているので、そちらの方で話をすることにしましょう。 →収支報告を見ると、広告収入を予算計上しつつ、結果として、広告が取れなかったということで、苦労されていることが伺えるが、予算との乖離が大きいと、平成28年度予算が達成可能なか気になる。 <p>◆平成28年度予算及び取組み目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要を説明 →道頓堀川開削400周年の平成27年度の実績と同件数を目標件数に掲げ、予算を組んでいる。 →説明を聞き、今年度の予算は、比較的手堅く計上していると理解した。 	<p>新井(南海電鉄)</p> <p>新井(南海電鉄)</p> <p>吉田委員</p> <p>新井(南海電鉄)</p> <p>吉田委員 新井(南海電鉄)</p> <p>豊島委員 酒井(南海電鉄) 長尾委員</p> <p>今中(南海電鉄) 酒井(南海電鉄)</p> <p>加藤委員 稲本委員</p> <p>田淵(河川課)</p> <p>長岡委員</p> <p>吉田委員 酒井(南海電鉄) 豊島委員</p> <p>加藤委員</p> <p>上田(河川課) 高橋委員</p> <p>田中委員</p> <p>加藤委員 吉田委員</p> <p>酒井(南海電鉄) 吉田委員</p>

議 事 録

→目標件数について、実際に目標件数を達成するには、この数値よりもより高い目標があつてこそと思うが、意気込みはどうか。
 →昨年度は道頓堀川開削400周年で、地域をはじめとした団体等が様々なイベントに取り組みられた結果である。昨年度の反動減を考慮せず、同件数の目標を設定し努力する。また、更に高い目標として、日々研鑽しているが、理想としては365日イベントを実施している状況を目指す。
 →より高い目標を掲げ、頑張っているということがよく分かった。南海主催のイベントについては、費用が発生しない内容や地域シニアの方々に協力してもらったり、また植栽イベントでは区役所との共同開催等も良い方法だ。
 →ロケーション撮影は、南海ロケーションサービスが窓口になられるとのことだが、収入的にはどうなるのか。
 →ロケーション撮影は、従来通りとんぼりリバーウォーク事務所で受付・実施をするので、今までと変更はない。南海ロケーションサービスは、南海電鉄所有等施設での撮影に関する受付・実施している部門で、とんぼりリバーウォークと同じくロケーション撮影という共通点があるため、互いに連携を図り、利用実績がある主催者に対して営業活動に取り組み、利用促進に努めている。

豊島委員
酒井(南海電鉄)

豊島委員
長尾委員
酒井(南海電鉄)

◆運営諸経費の徴収後の動向について

・概要を説明
 →平成27年7月2日に開催された第1回道頓堀川水辺空間利用検討会において承認された運営諸経費の徴収について、平成27年12月からとんぼりリバーウォークのホームページにおいて、イベントやロケーション撮影での利用時には、通常利用料金に加えて運営諸経費が別途必要である旨の告知を開始した。告知以後の新規イベント等の申し込み案件から適用することとし、告知以前に受付済みの案件については運営諸経費の徴収対象外とした。結果、運営諸経費の影響によるイベント等の申し込み件数の減少もなく、徴収に関する意見もなかった。

酒井(南海電鉄)

→もめごと等はなかったということで、引き続き、運営諸経費の徴収を実施するということですね。

加藤委員

(2) その他

◆平成28年度 さらなる賑わい創出に向けて

・事務局より概要を説明
 →地元地域の方々の協力のもと各種団体による様々なイベントが開催され、平成24年度から着実にイベント件数は増加している。しかしながら、これらのイベントは戎橋～太左衛門橋の区間で主に開催されていることが非常に多く、その他区間は閑散としているため、とんぼりリバーウォーク全体での賑わい創出が課題となっている。将来的には、目隠しパネルが全て取れて、店舗が川側に向き、さらにはオープンカフェをやっていただけることが望ましい。
 本日お答えすることが中々難しい内容ではあるが、物理的に川側へ出入り口を向けるのが出来ない点については、防潮堤との関係があり、今後経過を確認して別途検討させていただきたい。
 また、道頓堀橋下には展示パネルがあるが、これまであまり有効活用されておらず、また、道頓堀橋の西側は、広範囲にわたり目隠しパネルが続いている。今後は、更なる賑わい創出に向けて、目隠しパネルや展示パネル等を有効活用し、新たな提案内容についても試行実施として前向きに取り組んでいきたい。
 道頓堀橋下については、延長が非常に長く薄暗い雰囲気であるが、新たな取組みによりマイナスな雰囲気を軽減できるのではないかと考えている。

棕本(河川課)

→道頓堀橋から西側は閑散としている。戎橋付近からの人が流れてきておらず、回遊性を向上させるために具体的にどう賑わいをつくっていく予定なのか。

高井委員

→具体的な話はまだないが、戎橋～太左衛門区間の一番賑わっている区間は、ドン・キホーテ等もあり若者が中心となっており、同じような賑わいを道頓堀橋の西側にもっていくのは難しいと感じている。また、沿川の店舗も種類が違っているため、エリア毎に目指す姿を考えるべきと思っている。

棕本(河川課)

例えば、西側では賑わいというより落ち着いた空間として、展示会やギャラリー或いは美術大学生の発表会など、人を誘導できるような取組みを考えていく。

→案を募集し、広く意見を募るという考え方もある。

加藤委員
高橋委員
田淵(河川課)

→大黒橋の下のホームレスへの対応はどうか。

→以前より、対応はしているが、なかなか進んでいない状況である。ただ、河川・渡船管理事務所をはじめ、河川課としても声掛けをしており、引き続き取り組んでいく。

◆ロケーション撮影(ドローン)の試行実施について

・事務局より概要を説明
 →ドローン撮影はロケーション撮影の一つの手法であり、非常に注目を浴びている。今回、大阪の人気スポットであるとんぼりリバーウォーク及び通天閣を対象にドローンによる映画撮影を行い、新たな魅力を全国に発信する非常に良い機会である。使用するドローンは、あらゆる場合を想定した安全装備を搭載しており、また、実施する事業者のなかに気象予報士の資格を有する者もあり、当日の気象状況を的確に把握して実施の判断を行う。これまで、地元の方々や所轄警察と話をしており、特に警備体制の安全面について貴重な意見をもらっているため、今後詳細に内容を詰めていき、関係者の理解を得る必要があると考えている。

棕本(河川課)

→企業撮影の場合にもドローンを実施しているが、通行人等の顔が映ると思うが、映画会社やロケ会社にガイドライン等はあるのか。

加藤委員

→総務省が策定したドローンによる撮影映像等の取扱いに関するガイドラインに基づくものとする。

棕本(河川課)
田中委員

→住民を代表して、率直にお願いを申しあげる。否定することは申し上げないが、安全性について、地元住民に対して詳しい説明をお願いしたい。

→責任の所在が誰にあるのかも含めて、安全性について説明していただければと思う。

加藤委員
棕本(河川課)

→わかりました。

→他にご意見等何もないければ以上にて議事を終わります。

加藤委員

以上